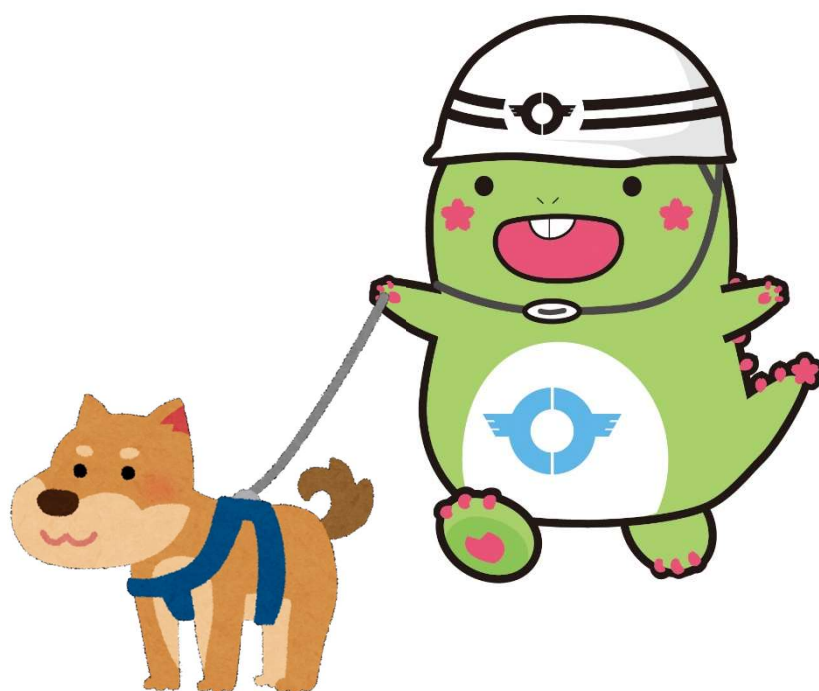


ペットの災害避難への備えについて



令和5年7月

東金市経済環境部環境保全課

1. はじめに

災害時の対応には、いわゆる「自助」「共助」「公助」があり、人の災害対策では、「自助」「共助」を基本としています。大規模な災害となれば、「自助」により自身や家族の身を守ることが必須です。

このことは、ペットへの飼い主の対応でも同じです。災害時、「公助」（行政機関による支援）は、人の救出・救助などの緊急的な対応が基本となることから、飼い主はペットの安全と健康を守り、他者に迷惑をかけることなく、適正に飼育管理する責務を負うこととなります。

そこで、環境省ガイドラインや市地域防災計画の内容を具体的に取りまとめた「ペットの災害避難への備えについて」を作成しましたので、ご活用ください。

2. ペット避難の基本的な考え方

ペットは家族の一員であるという意識が根付いた昨今、災害時に避難所にペットを同行することは、ペットの安全を守ることのみならず、ペットを飼っている被災者の心のケアの観点からも重要とされています。また、被災ペットが放浪状態になり、人への危害や公衆衛生・環境保全等の問題発生を防止することにつながったり、火災の発生や自宅が倒壊する危険等がある場合に、「ペットがいるから避難できない」「ペットをおいてきたので家に帰らないといけない」という行動を飼い主が取らずに済むことから、新たな被害の防止につながります。

こうした状況を踏まえて、平成25年6月に環境省から「災害におけるペットの救護対策ガイドライン」が示されました。本市では「東金市地域防災計画」において、「避難所には、ペットの収容スペースを指定し所有者自らが準備したケージ、餌等にて飼育を行う。」としています。

なお、盲導犬、介助犬等を除いたペットは、避難スペースからある程度はなれた場所で、かつ避難所の建物外で風雨をしのげる場所等に設置します。

① 自宅の安全確保

災害が起きたとき、飼い主とペットが安全に避難するためには、飼い主自身の安全確保が大前提となります。自宅が安全であれば、自宅での生活を継続するのも一つの避難方法です。

② 市の開設する避難所に避難＝「同行避難」

同行避難とは、避難が必要な場合において、飼い主が飼育しているペットをケージ等に入れて同行し、避難することです。ペットとともに避難をすることを指し、飼い主がペットを同室で飼育管理することではありません。

あらかじめ、ペットを連れた避難のための備えをしておき、避難先や安否確認方法等とともに、同行避難についても家族と相談しておきましょう。

3. 飼い主の備え

災害は突然起こります。いざというとき、ペットを守れるのは飼い主だけです。まず飼い主が無事であること、そして避難する場合にはペットと一緒に避難場所に避難すること（同行避難）が基本です。ともに安全に非難でき、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが大切です。

(1) 平常時に備えておくこと

① 飼い主の明示

災害時の混乱の中では、ペットと離ればなれになってしまうこともあります。保護された際に飼い主の元に戻れるよう、普段より、外から見える迷子札などを付け、さらに、首輪などが取れてしまった時の確実な身元証明としてマイクロチップの装着といった対策を取りましょう。

身元を示すものをつけていますか？

突然の災害に驚いて逃げてしまい、ペットが迷子になることがあります。保護された際に飼い主のもとに戻れるよう、普段から、外から見える迷子札などを付け、さらに、首輪などが取れてしまったときの確実な身元証明としてマイクロチップの装着といった二重の対策をとりましょう。

猫の場合

首輪と迷子札
マイクロチップ

※猫の首輪は引っ掛かり防止のため力が加わるとはずれるタイプのものがよいでしょう。



犬の場合

首輪と迷子札
鑑札と狂犬病予防注射済票
マイクロチップ

※犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は狂犬病予防法で飼い主に義務づけられています。



その他の小動物の場合

動物の種類に応じて、足環、耳標、マイクロチップなどがあります。



※マイクロチップは15桁の個体識別番号が記録されたチップのことで獣医師により装着が可能です。専用リーダーで読み取り、データベースに照会すると、飼い主情報を確認できます。登録を忘れずに！

《パンフレット「ペットも守ろう！防災対策」（環境省）を加工して作成》

② 「しつけ」をし、社会性を身につけさせる

避難所でのトラブルを防止するためや他の避難者に迷惑をかけないためにも、基本的なしつけをしておきましょう。

他人への迷惑となる行動を防止するとともに、ペット自身のストレスの軽減にもつながります。

人や動物に慣らしておく

犬の場合には、なるべく多くの人や動物に接することで、社会性を身につけさせます。

猫の場合には、家族以外の人にも慣らしておきましょう。

様々な音や物に慣らしておく

日頃からいろいろな環境を無理なく体験させておきましょう。環境の変化によるストレスを軽減させることができます。

キャリーバッグやケージに慣らしておく

外出する時だけ使用するのではなく、日頃から扉を開けた状態で部屋に置き、ペットがくつろいだり眠ったりする「安心できる場所」として慣らすことで、速やかな避難行動につながります。

不必要に吠えない（鳴かない）ようにしておく

慣れない環境やストレスで吠えることもあります。日頃からのしつけを通して原因と対策を考えておきましょう。

要求によるもの

吠えたときに要求を満たしたり、反応したりしていると、意思が通るまで吠え続けるようになります。

おとなしくしているときに褒めるなど、静かにすることに関心を向けるようにします。

恐怖や不安によるもの

社会的環境になれていないと、見慣れない人を見たり、飼い主が離れたりしただけで強い不安を感じて吠えることがあります。

人や動物や生活音に慣らすなどして適切な社会経験を積ませることや、ペットだけで過ごす時間に慣れさせることが大切です。

マテとオイデのしつけをしておく

マテ（制止）とオイデ（呼び戻し）はしつけの中でも重要です。社会に受け入れられやすくなるほか、交通事故や逃走防止、災害時などにも役立ちます。

トイレのしつけをしておく

決められた場所での排泄をさせ、後始末は適切に行います。

ペットの身体のどこでも触れるようにしておく

どこでも触れるようにしておくことで、災害時の健康チェックや応急処置、動物病院に行ったときなどにも役立ち、安心です。

③ 動物用避難用品の確保

避難所では、人に対する準備はされていますが、飼っている動物に対する備えは基本的に飼い主の責任になります。ペットと避難する際に使用するキャリーバッグやケージとともに、少なくとも5日以上分の物資を入れた「ペット用非常持出袋」を準備しましょう。

ペット用非常持出袋の中身

- フード、水、薬……………少なくとも5日分
- ペット用品……………ペットシート、排泄物の処理用具、タオル、ブラシ
首輪、リード、ケージ など
- 飼い主や動物の情報…飼い主の連絡先、ペットの写真、ワクチン接種状況、
既往症、健康状態、服用中の薬品名、
かかりつけの動物病院 など

④ 健康管理

狂犬病予防接種、ワクチン、ダニやノミの駆除などを日頃から実施しましょう。ペットや飼い主の情報を記入して、防災グッズなどと一緒に保管しておきましょう。

⑤ ペットの一時預け先の確保

避難所への同行避難が困難な場合を想定し、あらかじめペットの一時預け先を確保しておくことが大切です。特に、大型の動物、危険な動物、特殊な動物、専用の飼育設備が必要な動物をペットとして飼育している人は、災害が発生してから一時預け先を探すことが非常に困難ですので、事前に確保しておきましょう。

◇ ペットの情報・飼い主の情報

ペットや飼い主の情報を記述し防災グッズなどと一緒に保管し、身元表示できるようにしておきましょう

◆ペットの情報◆	
顔のアップの写真 (できれば飼い主と一緒に写っているもの)	全身の写真 (できれば模様や尻尾の形など特徴がわかるもの)
名 前	性 別 オス・メス / 不妊去勢 未・済
種 類	体 重
毛 色	生年月日 () 歳
マイクロチップ 未・済(番号)	鑑 札 番 号 (犬)
ワクチン接種 未・済(種類)	最近の接種日 令和 年 月 日
既往症 (持病、飲んでいる薬、アレルギーなど)	
性 格	
特 徴	
◆飼い主の情報◆	
氏 名	家族の氏名
電 話 (自宅)	(携帯)
メール ①	②
住 所	
非常時の連絡先	電 話
かかりつけの動物病院	電 話

《パンフレット「ペットも守ろう！防災対策」(環境省)を加工して作成》

(2) 発災時に必要な対応

① まずは人の身の安全

自分の身の安全を確保しましょう。災害時に動物を守るためには、まず飼い主が無事であることが大切です。

電気のブレーカー、ガスの元栓を切り、非常持出袋を用意し、落ち着いて自分と動物の安全を守りましょう。

② 避難先・避難方法の判断

同行避難をするか、在宅避難とするか、車の中での飼育とするか、一時預け先の飼育とするかなどについて、検討・準備します。

なお、大型の動物、危険な動物、特殊な動物、専用の飼育設備が必要な動物は、避難所での受け入れは困難です。

避難所にペット同行避難をする場合の注意点

- 避難所の中には、動物の苦手な人もいます。臭い、鳴き声、抜け毛などについて普段以上に周囲に配慮することが大切です。
- ペットに鑑札や迷子札などを付けた首輪を装着しましょう。
- ペットをキャリーバッグやケージに連れていきましょう。
- 物資を入れた「ペット用非常持出袋」を持っていきましょう。

避難所にペット同行避難をしない場合の飼育について

- 在宅避難
避難所への避難ではなく、自宅に留まる避難です。
- 車の中での飼育
ペットを車内で飼育すると、ペットの健康を損なう恐れがあります。温度や湿度を確認し、熱中症などに気をつけましょう。
- 一時預け先での飼育
ペットが慣れている預け先や災害時に預かってもらえる親戚、知人、動物病院などに預けます。

③ 避難所での飼い主の役割

避難所では、動物の世話やフードの確保、飼育場所の管理は飼い主の責任の下に行うこととなります。衛生的な使用管理を行うことはもちろん、周りの人に配慮したルールを作り、飼い主同士が協力して助け合いましょう。